日建連表彰2022

第63回BCS賞

国立競技場

選定理由【選考委員】野城智也・鳴海雅人・尾崎　勝

建築はいつの時代でも人工環境と自然環境の関係性のなかに存在してきた。そうしたなかで温暖化や資源枯渇など地球が悲鳴をあげ、つくるものの、つくらざるものの多様な選択肢に人々が思考を巡らす今、新しい都市の時代への変わり目を示唆し、それをいかに前進させるかが問われるプロジェクト、それが国立競技場である。

近寄れば神宮外苑に圧倒的な存在感を示す国立競技場であるが、俯瞰すると、世界に類をみない都市緑地・皇居から明治神宮、代々木公園へと繋がる広大な森の連鎖に「きらめく指輪」のようだ。東京都心の緑の帯にあっては「白薔薇の芽」であり、新梢の伸びやかさが躍動感を醸し出している。一〇〇年後の東京に思いを馳せる時、スポーツの聖地としての成熟のみならず、「豊かな森の緑と調和した都市の結び目」実現への強い覚悟が読みとれる。

巨大な建築にもかかわらず、きめ細かい環境共生デザインが施されている。見え隠れする屋根の重なりなど日本独自の建築作法を引用し、「深い陰影のある軒庇」・「縁側とデッキ緑地と森」の連なりの簡素な表現は魅力的だ。隙間や余白の空間も活かされており、親しみと調和へ誘い、一体感を感じる。世界規模の大会では、誰もがわかりやすい巧みなデザインを通して、多様性とは何か、親和性とは何か、平和とは何か、を世界に語りかけている。

設計一二カ月、施工三六カ月、かつて経験のないミッションに挑み、要求水準、コスト、工期を守り、結実させたのは、建築主・設計者・施工者の三位一体の結束力に尽きる。加えて、デジタル技術を駆使しつつ、スタンド屋根などのモックアップを活かしたプレキャスト組立て、分節部ディテールの大きなクリアランスによる優しさ、日本人に馴染む一〇五角木材の活用、光と風と視野が駆け抜けるオープンエア、自然光による天然芝と屋根付客席の快適性の両立、多様性社会に適したデザインなど、人間が自然と繋がろうとしている時代に相応しい空間に溢れている。

後世がレガシー建築と呼ぶには、空間の使い方を含め、スケルトンインフィルの構成を活かして、これからの社会の変化に合わせていかに育て更新し、そしてより多くの人々が参加し足跡を積み重ねることが大切だ。

地球の生涯、人生もそうであるが、予期せぬことが次々に起こる。これを好転させる力が、建築の世界にもあるはずであり、世界規模の大会を成就させたことは、日本の建築力を内外に示したといえる。

空席でも木漏れ陽ゆらぐモザイク状の椅子デザインは、人々の地球への叫びにみえた。ささやかなメッセージであるかもしれないが、「それがあるから人間・建築は前に進むのだ」ということを国立競技場は教えてくれる。

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。

1. 新宿御苑から見た空撮
2. スタジアム内観
3. 市民に開かれた屋上庭園と遠方に新宿副都心を見る

国立競技場　概要

- 所在地　東京都新宿区霞ヶ丘町10-1ほか、東京都渋谷区千駄ヶ谷1-15-1ほか
- 建築主　㈶日本スポーツ振興センター
- 設計者　大成建設㈱、㈱梓設計、㈱隈研吾建築都市設計事務所
- 施工者　大成建設㈱
- 竣工日　2019年11月30日

- 敷地面積　109,768㎡
- 建築面積　69,611㎡
- 延床面積　192,050㎡

- 階数　地上5階、地下2階
- 構造　鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造

詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

俳優の高橋克典さんがプロジェクトを紹介する「けんせつのチカラ」をYouTubeにて公開中です。左記二次元コードよりぜひご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／ GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／ Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館　早稲田アリーナ